

---

# 絵の具

独マサ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

絵の具

### 【Zコード】

Z3525D

### 【作者名】

独マサ

### 【あらすじ】

亮介が家に帰ると部屋がめちゃくちゃになっていた。そこにはうなだれたままの響子がいた。さて、二人はどうなってしまうのだろうか？

「駄目だと言つていいのだろう」

やり場のない感情はいつも、言葉が強くなることくと導かれる。

「何回言つたらわかるんだ。いい加減にしてくれよ」

黒革の光沢のあるソファーが血を流していた。どうどひで生々しい真つ赤な血だ。

「だつて、気がついたらいつもこいつなつているからしかたがないでしょう・・・・・」

響子は消えるよつの小さい声でつぶやく。響子は床に座り込んでいた。黒い髪は濡れたように汗でしめつている。白いTシャツは赤や黄色や黒い色が張りついて、なんだか革命を連想させる。

洋室のフローリングはまるで戦争の後のように無茶苦茶だ。色とりどりの絵の具がべつとりと広がっている。

我が家は、塩をまく代わりに絵の具をまき散らすらしい。と亮介は深いため息をつく。

「確かに僕は響子の画いた桜の絵に惹かれて君を好きになつたかもしれない。しかし、今では絵の具を見るだけで吐き気がするよ」重たい空気が更に重みを増す。蛍光灯の明るさが能天気な部下を思いださせた。

「風呂に入る

そういうてうなだれたままの響子を置き去りにして、風呂場へ向かう。

響子は、大阪の美大を出た。卒業する前、いくつかの広告会社に内定をもらつたが、絵で飯を食つていく事にあきらめがつかなかつた。

しばらく実家での創作活動が続いた。画いた絵を画廊に安い値段で持ち込み、お金を貯めては小さな展示会を開いた。

『そのうち誰かの目にとまるのでは』

甘い期待だつた。そんな中、ふと入った展示会で亮介と響子は知り合つた。

風呂につかっていた亮介は、段々落ち着きを取り戻した。始めは面食らつた。響子がおかしくなつた。どうしていいかわからず、ただそばにいることしかできず、抱き抱えながら泣いている響子を励ました。

しかし、何回も同じことが続くと、もう、うんざりだつた。

風呂からあがつた亮介は、さっきまでと同じ態勢でいる響子が田に入つた。床は華やかで、無茶苦茶で、悲しくて・・・・片付けなければ。

ふと何かが亮介の頭をよぎつた。なんかどうでもよくなつてきたな。

つかつかと、響子に近寄り、側にあつた小さな円柱状の容器に入つたピンクの絵の具を指すべつた。

「響子」

やさしく声をかける。つむいでいた顔があがる。

「化粧、しようか」

すつきりとした顔。田線は下。ウェーブのかかつた前髪を手の甲で横に持つていく。指を頬にあて、大きめのピンクの丸をぬる。汗で濡れていったからすんなりと広がつた。

「くすぐつたい・・・・」

響子は胸の奥でむずがゆいものを感じた。響子は無意識にあがつた田線の先に、亮介の寂しげな瞳をみつけた。

「おっ、けつこうかわいいぞ。幼稚園児みたいだけどな」

亮介はそう言いながら、何か探して周りを見渡した。黒い絵の具を見つけると、さつきのように指ですくう。

今度は亮介は自分の両方の眉をつなげ太くした。

「どう? 馬鹿殿みたいじゃないか?」

「ふふつ」思わず響子は笑つた。重たい体を持ち上げるよつともいきつて声を発した。

「よくにあつてる、ばかとのさま」

亮介は響子の目に浮かぶ涙を見逃さなかつた。それからお互いの眉毛を塗つたり、もみあげを太くしたりした。

たらこ唇で緑のひげの怪物ができたと響子は大はしゃぎした。負けじと亮介はインディアンをイメージしてぬりたくつたが、わけがわからないものができてしまった。

「あなたは美的センスがないのよ」響子の声が耳に残る。

一緒に風呂に入った後、久しぶりに燃えた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3525d/>

---

絵の具

2011年1月15日23時48分発行